



▲淀川の庭窪ワンド周辺で集められたごみ。水辺にペットボトルなどが流れつく(地元の環境保全をめざす個人・団体などが定期的に清掃活動をされています)



▲集められたごみの中にもすでに砕けて小さくなったものも

マイクロプラスチックって何？

「マイクロプラスチック」とは、微細なプラスチックごみのこと(5ミリ以下)。含有・吸着する化学物質が食物連鎖に取り込まれ、生態系に影響に及ぼすと懸念されています。

世界全体で年間数百万トン、日本からも年間数万トンのプラスチックが海洋に流出しており、現状のままでは2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋環境に流出すると推計されています。

家庭で考えよう “プラスチックごみ”

軽くて強く安価なプラスチックの普及で、私たち消費者は多くの恩恵をうけてきました。しかし一方で、プラスチックの大量使用がマイクロプラスチックによる海洋汚染を引き起こしたり、焼却時に地球温暖化の原因となるCO₂を排出するなど、深刻な問題にもつながっています。

自分の家庭の中に、どれだけの「プラスチック」があるのかを感じてもらいたい

全大阪消費者団体連絡会 事務局次長・大森隆さん



大阪消団連では「環境問題委員会」で、エネルギー・温暖化・プラごみなどの問題に取り組んでいます。今年6月からは「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」を新しくスタート。チャレンジされた方からはさまざまな感想をいただいておりますが、まずは自分の家庭の中にどれだけの“プラスチックがあるのか”を感じてもらえればと思います。

プラスチックは軽く丈夫で衛生的など良い点があります。しかし、安く大量生産できる便利さがポイ捨て・使い捨てにつながり、燃やせばCO₂を出すなど、環境への影響についても知っておくことが大切です。

「家庭のプラごみ調べ」を通じて、これまでの“大量生産・大量消費”の生活を、これからどうしたら良いのか考えるきっかけにして欲しいですね。



家庭のプラごみを調べてみよう！

組合員のみなさんもぜひ、「家庭のプラごみ調べ」に挑戦してください！

詳しい応募方法などは2ページに→

岩手からの復興だより ③

ひょうたん島苫屋は被災地における新しい水産業の在り方を目指し、2015年、大槌町にて創業しました。大槌町は新巻鮭発祥の地として知られており、冬になると沢山の新鮮な鮭が生産され水産業を支えてきました。

一方で、最大の市場である都会のお客様の嗜好に対応することも欠かせません。さらに、コロナをきっかけとした新しい生活様式に対応し、ネット販売を強化することも必要です。今、被災地の水産業は大きな曲がり角にきています。

都会のお客様の嗜好に合った三陸産魚介の燻製をスピーディに開発し、ネット販売などの新しい生活様式に対応した、新しい水産業を目指し、都会の元気シニアと地元の元気シニアが連携して頑張っています。

これからも被災地に寄り添って

大槌町

(株)ひょうたん島苫屋
代表取締役 新谷 洋一さん

